コートジボワール国月報（２０１６年７月）

|  |
| --- |
| 主な出来事【内政】●１８日から２２日にかけ、国内複数の都市で電気料金過払いの不解消等に対するデモが発生し、一部暴徒がコートジボワール電気公社（ＣＩＥ）事務所等を強奪、放火した。【外政】●１２日、バリー・ブルキナファソ外相は、アビジャンで、ソロ国民議会議長等に対するブルキナファソ司法当局からの逮捕状取り消しを歓迎し、両国間の信頼を再構築することができるようになると述べた。●２９日、ヤムスクロ（中部）で、第５回コートジボワール・ブルキナファソ友好協力協定（ＴＡＣ）の首脳会合が開催され、両国は１３の協定に署名した。【経済】●７日、当地を訪問していたＩＭＦの代表団は、コートジボワールのマクロ経済のパフォーマンスは２０１５年及び２０１６年上半期において非常に強力と評価し、２０１６年下半期の経済見通しも良好であると述べた。●１２日、コートジボワール投資促進センター長官は、２０１６年上半期は約４３８億円（国内３１％、海外６９％）の投資が行われたと発表した。●１６日報道によると、コートジボワールの鉱業専門家グループにより、２０１５年の鉱業部門の収益が前年比２４％増の約９５８億円であったことが報告された。●２０日、税関総局は、２０１６年上半期の関税収入が目標値を約１６０億円上回る約１６９３億円であったと発表した。【対日関係】●川村大使は、フラテルニテ・マタン紙のインタビューを受け、活発化する日・コートジボワール関係や、日本の協力について述べた。 |

【内政】

・１３日、コートジボワール軍検事は、共和国軍（ＦＲＣＩ）の兵士２名がテロリストの一人にコンタクトがあったにも関わらず上司に報告しなかったとして逮捕されたと発表した。同兵士がドラッグを撃った相手が、３月１３日のグラン・バッサムにおける襲撃事件に加担していたことが発覚した。同兵士は、ドラッグを売った相手が襲撃事件に参加するとは知らなかったと述べている。（フラテルニテ・マタン紙）

・１８日、フェリックス・ウフエ・ボワニ大学において、学生と警官が衝突し警官２名が負傷、学生３９名が逮捕されたほか、車両８台が損害を受けた。学生によるフランス語圏競技大会参加選手の大学学生寮利用反対デモの開催を警官が妨げたことで衝突したもの。これに対しウワタラ大統領は、選手の大学学生寮の利用はすでに取り消されていたと発言した。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙）

・１８－１９日（ヤムスクロ（中部））、２０日（ダロア（中西部）、ティアサレ（南部））、２２日（ブアケ（中部））、国内複数の都市で電気料金過払いの不解消（コートジボワール電気公社（ＣＩＥ）によって不適切に適用された値上げ率是正のため返金措置がとられたが、返金額が不十分であると主張）及び２回（１回に２ヶ月分請求。計４ヶ月）分の請求が通常よりかなり近い時期になされたことへの不満を表明するデモが発生した。各都市で一部暴徒によってＣＩＥ事務所建物及び車両等が強奪、放火されたほか、ブアケでは治安部隊と衝突し、腹部に銃弾を受けた２９歳男性デモ参加者が死亡、少なくとも１０数名が負傷。（フラテルニテ・マタン紙ほか）

・２２日、国民議会本会議で、憲法に関する国民投票実施にかかる法案が採択された。（フラテルニテ・マタン紙ほか）

・２３日、　１８－２２日のデモに関し、当地消費者組織は、ＣＩＥ幹部と交渉し、デモのきっかけとなった７月請求分の電気料金の支払い期間を１年内と定めた旨発表し、消費者に対し、今後デモ等を行わないよう要請した（フラテルニテ・マタン紙）。その後、デモは発生していない。

・２５日、コートジボワール海軍は、３隻目となるパトロール艇を入手した。同パトロール艇は、殉職した大尉にちなみ「フレガット・セコンゴ大尉」と命名された。（フラテルニテ・マタン紙）

・２７日、２２日のブアケでのデモ後、１００名が取り調べを受けた。このうち５９名がアビジャンの司法当局に引き渡された。（フラテルニテ・マタン紙）

【外政】

・２日、ウワタラ大統領は、アビジャンでメズアール・モロッコ外務・協力大臣と会談した。同大臣は、モハメッド６世モロッコ国王からのメッセージをウワタラ大統領に伝えたほか、二国間の協定や案件の進捗を喜び、誠実で効果的なパートナーシップの見本であると述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

・１１日、ウワタラ大統領は、ニアメで開催された協調会議(Conseil de l'Entente)首脳会合に出席した。（フラテルニテ・マタン紙）

・１２日、マブリ・トワケス外相は、アビジャンでバリー・ブルキナファソ外相と会談した。バリー外相は、会談後、「両国にとって大変難しい時期があったが、過ぎ去った」と発言した。バリー大臣は、コンパオレ元ブルキナファソ大統領及びソロ国民議会議長に対するブルキナファソ司法当局からの逮捕状が取り消されたことを歓迎し、逮捕状取り消しによって、両国元首、及び両国間の信頼を再構築することができるようになると述べた。（フラテルニテ・マタン紙インターネット版、フラテルニテ・マタン紙）

・１４日、ウワタラ大統領は、バリー・ブルキナファソ外相と会談した。同外相は、カボレ・ブルキナファソ大統領からウワタラ大統領による二国間関係修復のためにとられた措置への謝意と、カボレ大統領の二国間関係強化への意思を伝えた。ウワタラ大統領は、バリー外相を通じ、カボレ大統領へのコートジボワールによる二国間関係発展へのコミットメントを伝えた。（フラテルニテ・マタン紙）

・１８日、マブリ外相は、第２７回ＡＵ首脳会合（於：キガリ）のマージンで行われたインタビューで、安保理非常任理事国選挙立候補に関し、コートジボワールの立候補が、ＡＵによって承認を受けたと述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

・２９日、ヤムスクロ（中部）で、ウワタラ大統領、カボレ・ブルキナファソ大統領は、両国首相、閣僚を伴い、第５回コートジボワール・ブルキナファソ友好協力協定（ＴＡＣ）の首脳会合を開催した。同会合中、二国間で、商業、職業・技術訓練、航空、鉄道、文化、観光、児童人身売買、学術・研究の分野における１３の協力協定が署名された。（フラテルニテ・マタン紙）

・２９日、ウワタラ大統領は、アビジャンでオンエアマ・ナイジェリア外相と会談した。オンエアマ外相は、ブハリ・ナイジェリア大統領からのメッセージを伝え、域内の開発促進のためにコートジボワールとの協議を継続したいと述べた。（フラテルニテ・マタン紙）

【経済】

・７日、６月２７日から２週間に渡ってコートジボワールを訪問していたＩＭＦの代表団は、ウワタラ大統領及びダンカン首相と面会した。グラ団長は「コートジボワールのマクロ経済のパフォーマンスは２０１５年及び２０１６年上半期において非常に力強く、２０１６年下半期の経済見通しも良好である。債務持続性の維持のために、財政赤字は２０１９年までにＧＤＰの３％に収束させる必要があるが、政府による公営企業再編の取組みは評価できる。」と述べた。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙）

・１２日、コートジボワール投資促進センター（ＣＥＰＩＣＩ）長官は、２０１６年は１月から６月にかけて、１０３社から２１９０億ＣＦＡフラン（約４３８億円、内訳：国内３１％、海外６９％）の投資が行われたことを発表した。本年の国内外からの投資動員額は８０００億ＣＦＡフラン（約１６００億円）と予想されている。（フラテルニテ・マタン紙、ル・パトリオット紙）

・１６日報道によると、コートジボワールの鉱業専門家グループにより２０１５年の報告書が６月末に公開され、２０１５年の鉱業部門の収益が前年比２４％増の４７９０億ＣＦＡフラン（約９５８億円）であったことが報告された。（フラテルニテ・マタン紙）

・１８日、ダンカン首相出席のもと、タフィレ（北部）の飲料水改善工事が開始された。総工費８５．２億ＣＦＡフラン（約１７億円）は西アフリカ諸国経済共同体（ＥＣＯＷＡＳ）投資開発銀行（ＥＢＩＤ）、西アフリカ開発銀行（ＢＯＡＤ）及びコートジボワールによって賄われる。また、首相はフェルケセドゥグ～ウワンゴロの道路補強工事、フェルケセドゥグ、コング、ナシアンを結ぶ道路建設工事の２件の工事現場を視察した。前者はフランスによる債務免除・開発計画（Ｃ２Ｄ）の１９９．４億ＣＦＡフラン（約４０億円）の融資、後者はコートジボワールが７７０億ＣＦＡフラン（約１５４億円）を負担する。（フラテルニテ・マタン紙）

・１９日、アラブの開発援助基金（サウジアラビア、クウェート、アブダビ、ＯＰＥＣ、イスラム開発銀行、アフリカ経済開発アラブ銀行）は、エブリエ・ラグーンとココディ湾における開発プロジェクトについて、コートジボワールに２８２０億ＣＦＡフラン（約５６４億円）を１０年間金利１％の条件で融資する意向を示した。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ノートル・ヴォワ紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙、ル・パトリオット紙）

・２０日、税関総局は２０１６年上半期のレビューを行い、１月から６月末までに目標値より８００億ＣＦＡフラン（約１６０億円）上回る８４６６億ＣＦＡフラン（約１６９３億円）の関税収入があったことを発表した。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙、ル・ヌーヴォー・レヴェイユ紙、ル・パトリオット紙）

・２６日、コネ経済・財政担当大臣は、サウジ開発基金（ＳＤＦ）のアルバッサム副総裁とコートジボワールの飲料水改善計画への融資合意（推定８８億ＣＦＡフラン、約１８億円）、及び、井戸掘削等の開発プログラムへの贈与の覚書（３５億ＣＦＡフラン、約７億円）に署名した。（フラテルニテ・マタン紙、ル・パトリオット紙）

・２８日、ル・フォル仏農相はヤムスクロでウワタラ大統領に面会し、オランド仏大統領からの友好のメッセージを伝えるとともに、農業・林業・経済等の分野における仏・コの協力を再確認した。ル・フォル仏農相、フランス開発庁（ＡＦＤ）アビジャン事務所副所長、コネ経済・財政担当大臣、シセ予算担当大臣は、ダンカン首相出席の下、Ｃ２Ｄの枠組みで４５２億ＣＦＡフラン（約９０億円）の財政支援と、国立コンピューターセンターへの総額９８０億ＣＦＡフラン（約１９６億円）の支援の二つの合意に署名した。後者は農業・農学・気象・環境分野における研究のためにスーパーコンピューターを設置するもの。（フラテルニテ・マタン紙、ランテール紙）

・３０日、フラテルニテ・マタン紙はアビジャン～グラン・バッサムを結ぶ４２．７ｋｍの高速道路の劣化状況を報じた。通行する車の運転が荒いために道路が損壊しているとしている。同高速道路は中国が主要な融資元（８２０億ＣＦＡフラン、約１６４億円）となり、２０１５年に通行が開始されたが、工事は未だ完了していない。（フラテルニテ・マタン紙）

【対日関係】

・２６日、フラテルニテ・マタン紙は次のような川村大使へのインタビュー記事を掲載した。「２０１３年のＴＩＣＡＤⅤ参加のためのウワタラ大統領訪日及び２０１４年の安倍首相のコートジボワール訪問以来、二国間の要人往来は活発化している。日本からの経済協力は中長期的な視点の下実施しており、日・コートジボワール友好交差点への２５２億ＣＦＡフラン（約５０億円）や域内海洋科学技術アカデミー（ＡＲＳＴＭ）への機材強化支援等、その規模は増大している。　１９８０年代にはコートジボワールにも日本の民間企業が進出していたが、地理的距離、日本におけるコートジボワールに関する情報の少なさ、またセキュリティ上の理由等のため、民間投資は限られたものとなっている。しかし、豊田通商は、９７％を出資するＣＦＡＯを通して、コートジボワールにカルフール第一号店を開店させた。また、ＪＩＣＡを通して投資環境改善のための技術協力も実施している。コートジボワールの民間セクターの成長のためには、ビジネス環境改善のための努力を続ける必要がある。その他、日本は文化協力、食糧援助等も行っており、近くＴＩＣＡＤⅥの開催が予定されている。」（フラテルニテ・マタン紙）